

さくら第495号

令和 3年 3月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7: TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

具体的に動く
 具体的に動く
 具体的に動く
 具体的に動く
 具体的な答が出るから
 むっしょ

『当たり前と、ありがとうの心』

2021年丑年がスタートして直ぐの9日頃から降り続く雪はやがて大雪となり、11日の成人式がいたる所で中止や延期になりました。

11日に開催する「新春はじき初めそろばんペア・ンテスト」は新型コロナウイルス感染防止のためとして、昨年12月に中止としていたので大雪情報を見聞きしても気が楽でした。

1月10日(日)、北陸自動車道の金津IC～福井IC間で大雪による自動車の立ち往生が発生し最大で1,500台が動けなくなり、自衛隊が出動しスコップによる除雪が続きしました。

小学・中学・高校では11日から14日まで電車やバスも全面的にストップし休校になるなど交通機関はマヒし、道路は雪でふさがり凸凹道のためゴミ収集車も1週間ストップしました。

1月12日から4日連続で坂井市の磯部小学校で3年生と4年生に学校支援そろばんボランティア授業の予定でしたが、歩くのも困難とあり学校へ電話すれば延期ということになり、後日、改めて日程を決めることにしました。3年前の大雪を思いだします。

やがて雪もおさまりふだんの生活が戻り、車庫から出した車を駐車させるためにスコップで雪を除くことにします。車を置くためには約2mに4m幅を空けねばなりません。家にある小型除雪機は高く積もった雪には対応できず人力しかありません。

ただ何となくしていると疲れそうなのでどのくらいの時間が必要かと大まかに計算してみました。積もった雪が少なくなったとはいえ、まだ

80cmあまりあります。スコップで雪をトウフを切るようにしながら、要した時間は約90分。

雪かきをしながら、降らなければ、積もらなければ今回のような大騒動は起きず、心身ともに楽であったのにと、ふだんの生活のありがたさをつくづく感じました。

当たり前に不自由なく生活できる日々の大事さ、ありがたさを痛感します。

そこで、毎日の生活を今一度ふりかえてみましょう。朝から夜まで何事も大きなトラブルもなく安全に過ごしていますが、それらは当然のことであり当たり前のこととして何も気にせず受け止めています。

しかしながら、この当たり前と思う事を当たり前のように行なうためには多くの人たちの助けがあってできることだと思つづく思います。健康のありがたさは病気になってはじめて分かるのと同じように、その時になってしか感じません。

大雪で道路がふさがったので1週間のあいだゴミ収集車が動けません。それぞれの家でゴミを置いておかねばなりません。

コンビニエンスストアでは食べ物が売り切れてしまい在庫がなくなったといひます。渋滞が続く国道では30時間も動けなく食べ物もなく大問題でしたが、近くの商店から無料のパンなどが配られたというニュースを見聞きしました。新聞が配達されなかった日があり、郵便物も数日のあいだ集配がストップしました。

このような不安といらだちのなかでもし、病気になれば大変なことになりますが幸いにも健康で過ごすことができ喜んでいました。たった1週間ほどでしたが何事もなくひと安心。

いつもの変わらないふつうの生活時間を持てるためには目にみえないところで多くの支えがあるからだと感謝するのみです。

当たりの反対語は「ありがとう」という、「感謝の心」です。日々の生活のなかにありがどうを多く見つけ、言葉に出して伝えねばなりません。コロナ感染防止で不自由な生活が続きますが、健康で楽しく過ごすためにも、ありがどうの心を大きな声で多くの人に伝えましょう。

さくら第492号

令和2年12月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: Tel.51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『コロナ感染を振り返り今後に生かす』

さかのぼること1月20日に横浜港を出航したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が香港、ベトナム、台湾を航海し那覇港から横浜港に戻るまでに、船内で集団感染が発生。

56か国から船員1,045人、乗客2,666人の計3,711人は2月4日に下船するはずであったが感染拡大をうけそのまま横浜港で停泊し種々の検査を受けました。

2月6日に10人が感染者となり以後増え続け634人が感染し14人が死亡。この時点では限られた船内だけの感染として私も大変なことだなと他人事のように思うだけでしたが、その後の感染者は日本国内で増加し続けます。

3月2日の月曜日から全国の小・中・高・大学が一斉休校となり、不要不急の外出は自粛され、手洗い、うがい、マスク着用が要請され今もなお三密をさける生活が続きます。

さくらそろばんでは、4月13日～5月14日まで塾を休みました。3月20日の「珠算優良生徒表彰式」は中止され、各教室での伝達表彰となりました。

3月22日の全珠連検定試験、4月12日の珠算能力検定試験などは施行の1週間前になって急遽、中止。

5月31日の全珠連検定試験と、6月28日の珠算能力検定試験も中止。6月21日と7月26日によりやく全珠連検定試験が施行。8月2日に珠算能力検定試験の段位と準級・4級以下が行われました。7月と8月の全国大会も中止になるなど多くの活動が休止されましたが6月1日からやっと学校へ行けるようになりました。

新型コロナ感染のない過去がどれほど大事であったかを今、つくづく感じています。

ところで災いはいつ起きるか不明ですが、過去の出来事を知ることにより対応策が見いだされることが多くあります。

1918年(大正7)秋から1921年春にかけて大流行したインフルエンザにより日本国内での患者数は2,380万人、直接の死亡者だけでも389,000人といえます。1918年3月にアメリカで発生。第一次世界大戦中とありアメリカがヨーロッパ方面へ送った兵士から感染が広まり全世界へと発生していきました。

当時のスペインは中立国だったので他の国では制限されていた多くの情報がここから流されたことからスペイン風邪とよばれました。

福井県での患者数は1918年の第一回流行で237,510人、志望者が4,077人。第二回流行の1919年では15,053人が感染して1,026人が死亡。第三回の1920年では1,101人が感染し、9人が死亡とあります。当時の福井県の人口は599,155人でした。

その当時に出された「予防心得」には、人ごみに出ない、マスク着用、うがいの励行、身体弱者はとくに注意するとあり、今と同じです。

スペイン風邪を引き起こした「H1N1型ウイルス」が日本の隅々にまで広がり、もうそれ以上広がる限界を超えたので、スペイン風邪にかり生き残った人々が免疫抗体を得たからともいいます。マスク、手洗い、うがいが重要。

今年の修学旅行は福井県内となり、三方五湖ほとりの水月花で泊まり、縄文博物館や年縞博物館見学、若狭塗箸作り、蘇洞間巡り。

そのほか池田町でのアドベンチャー体験、勝山での恐竜化石発掘。中学3年は芦原温泉に泊まり自分たちだけの花火2,000発打ち上げを間近で見ると、これまでの大都市での観光地見学とは異なっても、皆で共に過ごした時間は貴重な体験になったことでしょう。

コロナ感染防止策としての行動をネガティブにとらえず、今、できる最善の方法と行動をすることをポジティブに考え、前進しましょう。

さくら第494号

令和 3年 2月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『1週間は日曜日から土曜日まで』

1週間は7日あり1日は24時間です。カレンダーは日曜日から始まり月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日と進みます。

いつ頃からこのような並び方になり曜日の名前が決められたのでしょうか。日本だけの表し方なのか、世界の国々ではどのように決められているのでしょうか。気になります。

7日を1週間とする暦(こよみ)を使い始めたのは古代メソポタミアの人々だといえます。メソポタミアでは月の満ち欠けを基準に28日～30日をひと月としていましたが、やがてひと月では長いので4つに区切り、7日をひとまとまりとする「週」を使い始めたといえます。

新月⇒上弦⇒満月⇒下弦という節目の形が週の由来ともいわれます。

近くで誕生したユダヤ教の旧約聖書では「神は7日で世界を創造された」といいます。江戸時代の元和8年(1622)に京都の毛利重能(もうりしげよ)が書いた最古のそろばんの書物で現在も残っている「割算書・わりざんしょ」の最初のところに次のように書かれています。

神は一日目に昼と夜をつくり、二日目に天と水、三日目に陸と海と草と木、四日目には太陽と月と星、五日目に魚と鳥、六日目に動物と人をつくり、七日目には休んだ。この日を祝って休日としたとあります。

メソポタミアで発明された「週」が紀元前のエジプトに持ち込まれます。エジプトでは「占星術・せんせいじゅつ」がとても発達しており、宇宙を見て広大さ、不可思議さを感じ天空で太陽や月、星の動きに神秘的な力を認め、それに

よって現世のあらゆる事がなされていると信じました。星の運行や天体現象から国家や社会、個人の運命を占います。

その後、近代の天文学によって衰退しましたが今でも星占いとして残っています。

エジプトでは星と地球との距離が、土星→木星→火星→太陽→金星→水星→月の順で遠いとされており、それぞれの惑星が地球から遠い順に24時間のうちの1時間ずつを支配していると考えました。

24時間を7日で割ると3余るから、一つ目の惑星は3つずつズレていき、これを7日間にわたって当てはめるとき、月、火星、水星、木星、金星、土星、太陽の順になります。

1日を24時間に分けるのは紀元前1400年ころのエジプトから始まったともいい、エジプトでは10日を単位とする独自の週が別にあったといえます。

日本には中国の唐へ渡った弘法大師が持ち帰った「宿曜経・すくようきょう」などの密教教典によって平安時代の初めに伝えられ、朝廷が発行する漢字だけで書かれた「具中暦。ぐちゅうれき」には曜日が書かれ干支、二十四節気、七十二候が記載されていました。藤原道長が書いた「御堂関白日記・みどうかんぱくにっき」は国宝になっており奈良時代からこの具中暦に日記を書く習慣ができたといえます。

平安時代から江戸時代まで日曜日は「密」と呼ばれており、語源はソグド語の日曜日を意味する「ミール」からといえます。

古代バビロニアで誕生した1週間という単位が紀元前のエジプトに伝わり、ユダヤ教やキリスト教の「神は六日間で世界をつくりあげ、七日目を休息日としたので、日曜日が週の始め」とする考え方が合わさり、「日曜・月曜・火曜・水曜・木曜・金曜・土曜」の順番になったのです。

ちなみに中国では、日曜日を星期天といい月曜は星期一、火曜が星期二、水曜を星期三、木曜は星期四、金曜は星期五、土曜を星期六と言います。